湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名：湘南医療大学
所属：専攻科
名前：冨井悦子
作成日：2026 年 5 月 25 日

１．教育の責任

私は専攻科助産学専攻に従事しており、関わる対象は助産師を目指す学生である。「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という理念の基に日々教育を行っており、豊かな人間性と高度な専門性を併せ備えた人材の養成、地域社会に貢献できる職業人を輩出することが主たる目的である。多くの学生は修了後には周産期医療を担う病院等に就職をし、あらゆる年代の女性の健康支援、母子を中心とする子育てを行う人への支援を実践していく役割が期待される。少子高齢化社会にある現在、分娩を取り扱うことのみならず、助産師に求められる役割は多様化していると考える。困難が生じたときにも常に課題と向き合い、最善の方法を模索し行動できることを学生には意識付けたい。

私は助手の立場から、教育や研究を円滑に行うために必要な業務として、授業や演習の準備、物品の管理等を任される。学生が前向きに積極的に授業や演習に参加できるよう配慮し、安全で快適な環境を整え、「実践家」としての助産師の育成に寄与することが責任である。

また、1 年間の課程の中で重要な学びとして 4 カ月間におよぶ臨地実習があり、学生が心身共に健康な状態で、主体的に取り組めるように指導及びサポートを行うことも大切な役割である。

２．私の理念・目的

１）私の理念

私自身は 30 年余り自身のワークライフバランスを保ちながら、助産師として病院・診療所・行政の非常勤職員・助産院・開業助産師としての活動など様々な経験をしてきた。そのような業務の中で、看護学生に関わる機会があり、昨今の若い学生の感覚、人との関わり方、学び方に触れるにつれ、私自身が経験してきたことを少しでも伝えていける立場になりたいと考えるようになった。私自身の特徴としては、勤務経験から実際に見聞してきたことを活かしながら「実践家」としての経験を交えて学生に関わることができると考えている。助産師を目指す学生に期待することは、女性の一生のなかで大きなライフイベントである妊娠・出産・育児をサポートし、また産む、産まないにかかわらず女性の一生をサポートすることを業とする立場としての謙虚さと、関わる人の幸せを願い、学び続けることを怠らない姿勢を身に付けて欲しいということである。

２）理念を持つに至った背景

私は看護師となり、最初に配属されたのが産科と内科の混合病棟であった。看護学生の頃に母性看護学実習で助産師の指導を受ける場面があったが、とても厳しく、緊張と萎縮であまり興味を持てなかったため、母性看護については苦手意識があった

が、産科病棟で勤務する経験のなかで女性のサポートをすること、母子に関わる仕事の魅力を知ることになる。分娩に立ち会うことは感動の連続であった。命が産まれる瞬間を目の当たりにして、「子どもが親を思う気持ち、親が子どもを思う気持ち」に触れていく仕事の素晴らしさを探求していきたい気持ちになったことを覚えている。その時そう感じられた自分の感性があったこと、助産師を目指す行動を起こすことができたことが人生のターニングポイントであったと言える。今関わっている学生にも、今だからこそ持てる感性があると思う。その気持ちを大切にして、助産の楽しさを伝えていきたい。

3．教育の方法・戦略

【講義・演習のサポート】

ウイメンズヘルス	家族計画と受胎調節法
助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）	妊娠期の助産診断技術
〃	妊婦健康診査（妊娠中期・後期）
助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）	分娩介助技術
〃	分娩期に必要な技術
〃	分娩介助技術評価
助産診断・技術学Ⅲ（産褥・新生児期）	母乳育児支援
〃	産褥期と新生児期の助産技術
〃	事例検討
〃	産後の保健指導
助産診断・技術学Ⅳ（乳幼児期）	乳幼児の栄養とケア
健康教育論	健康教育の実際
助産管理学	災害対策と支援活動
地域母子保健活動論Ⅰ	子育て支援
地域母子保健活動論Ⅱ	地区踏査と地区診断
〃	合同報告会
助産学研究	文献検索
〃	事例研究

【実習編】

・助産学実習１（継続）
・助産学実習Ⅱ
・助産学実習Ⅲ（地域母子保健）
・助産学実習Ⅳ（助産管理）

助産師を目指す学生として、母性看護学を基礎として、助産診断・助産計画のアセスメントに繋げていく学びが重要である。しかしながら、コロナ渦を学生として過ごし、臨地実習の経験が乏しいこと、また社会的背景から核家族で育ち、身近に乳幼児がいる経験がない学生が多く、妊娠・出産・育児のイメージを持つことが難しい現状である。さらに、結婚・出産の晩産化で学生が関わる対象は高齢出産となるケースが多い。常に謙虚さを持ちながら、女性の人生の上で大きなライフイベントを支える自覚、母子２つの命を預かる責任感を持つ姿勢を育成していきたいと考える。

４．学習成果

主に担当した助産管理学（災害対策と支援活動）の授業での学生のコメントより

・災害時の母子の支援の大切さが理解できた。

・分娩の進行は止めることができないから、災害時にも母子を守る必要がある。

・災害時看護に興味が持てた。

災害時支援も助産師の重要な役割の一つであることを伝えることを意識して授業を行い、実際に備えるべき物品等を学生が見たり触れたりできるよう準備した。

５．改善のための努力

・スムーズに授業・演習が進行するために、授業で必要な教材、資料は何かを確認し、演習では目的・目標を明確にして計画を立てることを心掛ける。

・日ごろから、学会や研修会等に参加し、自己研鑽に努めている。自分自身の学びが、学生に還元できることが望ましい。

【学外の活動】

・公益社団法人　神奈川県助産師会　災害対策委員

・一般社団法人　川崎市助産師会　　災害対策委員

・公益社団法人　川崎市看護協会　　母子保健業務従事者

６．今後の目標

１）短期目標

（講義）

・学生が主体的・意欲的に学ぶための環境を整える。

・授業、演習を行う目的、方法、進め方の確認を怠らない。

・同じ実習、授業であっても指導案の見直しを毎回行う。
・学生の考えや行動から、疑問や不安を確認し前向きに取り組めるように関わる。

（実習）
・臨床の場において、安全に実習を遂行できるよう基本的事項の確認を常に行う。
・学生が主体的に不安を最小限に行動できるよう、ポジティブなフィードバックを心掛ける。

1）長期目標

（講義）
・授業、演習、実習の流れの中で、学生が力をつけていくために、自分自身も学びを怠らず、スキルの向上に努めて教育に活かす。

（実習）
・学生との信頼関係を構築し、実習施設との調整を密に行い関係性を高めながら、相互に建設的で達成感のある実習となり得るよう行動する。

※添付資料
なし